

ベトナムにおける烏龍茶産業－台湾との関係に注目して

アジア・アフリカ地域研究研究科 博士課程（5年一貫制） 4年

WU YUNXI

ベトナム

2019年10月10日～2019年11月14日

計画の概要

本研究では、台湾からベトナムへ移転した烏龍茶産業を例とし、中小規模の技術集約型農業投資が受け手社会に与える多面的な影響を解明することを目的としている。

その前の調査結果を踏まえ、助成期間内には第四回の現地調査を実施する予定である。調査の目的は、烏龍茶産業がベトナムに起業以来台湾人と地域住民の協力関係変化の実態を調査することである。

主な対象は、地域社会での烏龍茶工場の経営者と労働者、茶葉栽培の契約農家と企業、及び政府や仲介者など、烏龍茶の生産に様々な形で関係する者とする。

データ収集は主に2つの部分で構成される。まずは戸別訪問調査、経営者や仲介者など主要な人物へのインタビューを実施し、その間にネットや図書館から統計データや文献を補足する。

成果

研究地と研究時期

本研究では、ベトナム中央高原のラムドン州のバオロク市とバオラム県を調査地とし、研究時期は烏龍茶が台湾からベトナムに導入した1988年から現在までの三十年間に設定する。

地域住民との雇用と協力関係変化

1) 背景

台湾とベトナムからの投資家と共に、烏龍茶工場を経営する途中に輸出市場（台湾市場）と地域社会の両方からの機会と圧力に直面していた。この三十年間で、市場環境と地域社会は変わっていて、輸出市場の茶原料の需要量が増加する一方で、品質、特に化学残留に対する要求も厳しくなった。そして、数年の働く後、地域社会での熟練労働者が増加する一方で、烏龍茶産業の投資熱にもたらした同業競争と労働者・協力者の給与要求を引き上げることも伴った。

2) 雇用戦略の変化と影響

投資家は、各段階の状況変化におうじて、労働者との雇用形態と地元の烏龍茶栽培農家との協力形態をより安定的な品質、かつ効率的な供給に向けて再調整するよう促した。

雇用戦略において、工場の所有者は開放の態度を取って、誘引メカニズムを導入して、経験の有無にかかわらずにすべての潜在的な労働者を引き付けた。対照的に、不適格の労働者を識別すると抜かすためスクリーニング・排除メカニズムも採用した。

誘引メカニズムは、社会的な弱者層（図一・図二）に雇用労働に参加する機会を提供し、他の社会階層の様に生活と経済状況を改善する可能性にもたらした。

一方で、スクリーニング・排除メカニズムは体力が不十分、家事や自分の農地に時間をかける必要がある、または十分なスキルや知識を習得できなかったグループに続ける意欲を出なくさせる方法を通して除外した（図三）。

3) 協力戦略の変化と影響

協力形態において、雇用戦略と同様の考え方を持って、誘引とスクリーニング・排除メカニズムを採用した。それは、最初の段階に、経験や資金状況にかかわらずに潜在的な労働者を引き付く、他の農産物より高い買い付け価格や頻繁に無料な技術指導を行い誘引メカニズムと、ラダー価格や変わっている生産販売契約を代表とするスクリーニング・排除メカニズムである。

誘引メカニズムにより、近くの農民だけではなく、全国範囲での烏龍茶の栽培に興味ある方や収益性を期待する投資家の参加を引き付けた（図四）。

スクリーニング・排除メカニズムにより、弱い価格リスクに対応する能力や、弱い資本力や、品質の要求を満たさなかったグループを徐々に不安させる方法を通して除外した。

4) 結論

今ベトナムでの烏龍茶経営者は、開放的な誘引メカニズムと複雑な抑圧・排除メカニズムを広く使用した。誘引メカニズムは地元から全国への参加者の流れを促進し、そしてスクリーニング・排除メカニズムは品質管理と効率改善方面の圧力をすべての参加者に共有した。それに通じて、地域社会の農産品生産システムは高効率化や品質ベースに向けて促進した。



図一 弱者層の生存環境



図二 弱者層の交通条件



図三 茶摘み労働者（全員若い女性）



図四 台湾投資家、地域住民とベトナム外来投資家の茶園